

令和2年度

事務事業評価シート 【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	06	01	104660	地域スポーツ推進事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	04 スポーツの振興	
	施策	01	生涯スポーツの推進			
目的	地域スポーツ（生涯スポーツ）の推進を図る。					
対象	スポーツ指導員、スポーツ推進委員、地域スポーツ普及員、参加を希望する市民等					
意図	市民に広くスポーツへの関心を持っていただくとともにスポーツをするきっかけづくりを提供する。					
事業概要	地域スポーツ推進事業 12,032千円 スポーツ指導員の配置 スポーツ推進委員の配置（市内39名） 地域スポーツ普及員の配置（342名：各行政区選出） 早起きマラソンの開催（市内22会場） スポーツ教室、イベント等の開催 ニュースポーツ等の普及、ニュースポーツ交流大会の開催					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	早起きマラソン延べ参加者数	人	計画	155,000.0	138,000.0	
			実績	129,107.0	22,329.00	
2	市スポーツ推進委員等が指導するスポーツ教室等の参加者数	人	計画	5,500.00	5,500.00	
			実績	6,775.00	136.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	地域で行うスポーツ教室や早起きマラソン等の延べ参加者数	人	目標	191,000.0	156,000.0	
			実績	147,259.0	24,876.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度	目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い	

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
スポーツ教室や早起きマラソン等の延べ参加者数は、市の人口が減少傾向にあるほか、新型コロナウイルス感染症防止の観点から中止や規模縮小が多く、参加者数が大きく減少した。		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市民が生涯にわたり積極的にスポーツに取り組むため、市民のスポーツ参加機会を増加させる必要がある。そのためスポーツ団体と協働し、多様化する市民のスポーツニーズに対応したスポーツ教室などの開催を推進する。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	早起きマラソンの延べ参加者数は、少子化、高齢化の影響が大きく前年を下回っている。市内全域での取り組みを目指し、新規会場の設置や新たな参加者増への取り組みにより増加が期待できる。また、スポーツ推進委員による地域におけるスポーツ教室等を充実させることにより、参加者数の増加が期待できる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	市民の将来にわたる健康増進、体力向上を図っていくため、より一層の充実を図る必要がある。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市民がいつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しむために、市民のスポーツ参加の機会を増やす必要がある。そのため、早起きマラソンを推進するほか、多様なスポーツ教室の開催を推進する必要がある。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	国のスポーツ基本法第10条に規定する地方スポーツ推進計画として、またスポーツ基本計画を上位計画とする「花巻市スポーツ推進計画」を平成29年8月に策定した。今年度は新型コロナウイルス感染症防止の観点から、スポーツイベントやスポーツ教室の多くが中止となった。また、早起きマラソンは前期実施期間を中止としたほか、実施を見送る地区も見受けられ、全体的に参加者は大きく減少した。このような状況下において、感染対策を講じながら可能な限りのスポーツ行事を実施し、一定の効果が図られた。
	次年度に向けて	次年度の地域スポーツの推進に当たっては、新型コロナウイルス発生状況を注視しつつ、十分な感染拡大防止対策を講じ、中止や規模縮小を含め各種スポーツ行事の実施可否を判断していく必要がある。早起きマラソンについては、新規実施会場の設置など、会員の増加に努めていきたい。また、子どもから高齢者、障がい者がスポーツをするきっかけづくりとなるスポーツ教室や講習会等を開催し、市民が、いつでも、どこでも、いつまでも気軽にスポーツに親しめる事業の推進を図る必要がある。

令和2年度

事務事業評価シート

【事後評価】

会計	款	項	目	事業コード	事業名	
01	10	06	01	104670	地域スポーツ支援事業費	
総合計画	分野	03	人づくり	政策	04 スポーツの振興	
	施策	01	生涯スポーツの推進			
目的	地域スポーツ（生涯スポーツ）の支援を行う。					
対象	花巻市、石鳥谷町、大迫町、東和町体育協会、花巻市スポーツ少年団本部、総合型地域スポーツクラブ、実行委員会等					
意図	地域スポーツ（生涯スポーツ）の普及、健康増進、体力向上を図る。					
事業概要	花巻市、石鳥谷町、大迫町、東和町体育協会 地域スポーツ振興事業補助金の交付 22,283千円 花巻市スポーツ少年団本部事業補助金の交付 500千円					
市民参加の有無						
市民協働の形態	共催	実行委員会・協議会	事業協力・協定	後援・協賛	補助・助成	委託
活動指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	体育協会及びスポ少本部主催のスポーツ教室等の実施回数	回	計画	320.00	320.00	
			実績	280.00	46.00	
2	スポーツ少年団本部への登録者数	人	計画	2,260.00	2,141.00	
			実績	1,930.00	1,717.00	
3			計画			
			実績			
成果指標		単位	区分	H31	R02	R03
1	体育協会及びスポ少本部主催のスポーツ教室の延べ参加者数	人	目標	6,000.00	6,000.00	
			実績	5,497.00	632.00	
2			目標			
			実績			
3			目標			
			実績			
成果指標の達成度		目標値より高い		概ね目標値どおり		目標値より低い

成果指標の達成度の要因分析（成果指標を設定しない場合は、その理由を記載）		
<p>市体協体育振興事業及びスポーツ少年団本部事業の支援により、企画事業数及び参加者数が増えてきている。スポーツ少年団本部登録者は、少子化により減少しているものの、近年、市体育協会が魅力あるスポーツ教室を開催しているため、延べ参加者数は増加している。今年度は新型コロナウイルス感染症防止の観点から中止や規模縮小が多く、実施回数や参加者数は大きく減少した。</p>		
目的妥当性	公共関与の妥当性	市民のスポーツ参加の機会を増加させるため、市体育協会・競技団体・総合型地域スポーツクラブなどと協働し、多様化する市民のスポーツニーズに対応した多様なスポーツ教室の開催を推進する。
	妥当である	
	見直し余地がある	
	妥当でない	
有効性	成果の向上余地	市体協体育振興事業及びスポーツ少年団本部事業によって、体育協会及びスポ少本部主催のスポーツ教室の延べ参加者数は増加している。スポーツ教室の開催支援の継続により参加者数の一層の増加が図られる。
	向上余地がある	
	向上余地がない	
効率性	事業費・人件費の削減余地	花巻市体育協会のスポーツ教室事業やスポーツ少年団本部活動の一層の充実を目指すため、花巻市体育協会を充実させ、企画や立案能力を高め、より充実させる必要がある。
	事業費の削減余地がある	
	人件費の削減余地がある	
	どちらも削減余地がない	
公平性	受益と負担の適正化余地	市民のスポーツ参加の機会を増加させるため、市体育協会・競技団体・総合型地域スポーツクラブなどと協働し、多様化する市民のスポーツニーズに対応した多様なスポーツ教室の開催を推進する必要がある。
	受益機会の見直し余地がある	
	費用負担の見直し余地がある	
総合評価	今年度の振り返り	今年度は新型コロナウイルス感染症防止の観点から、スポーツイベントやスポーツ教室の多くが中止となった。このような状況下において、感染対策を講じながら可能な限りのスポーツ行事を実施し、一定の効果が図られた。
	次年度に向けて	<p>国がスポーツ基本計画（平成24年3月）を策定し、子どものスポーツの機会の充実、ライフステージに応じたスポーツ活動の推進、住民が主体的に参画する地域のスポーツ環境の整備等が政策目標として掲げられた。これを受け、花巻市スポーツ推進計画を策定（平成29年7月策定）し、より一層スポーツ環境の整備を図り、市民の多様化するニーズに対応したスポーツ教室等の開催に努めながら、スポーツの機会の充実とスポーツ活動の推進を図る必要がある。</p> <p>スポーツ教室等は、市体育協会との事業のすり合わせを行い連携を深めており、魅力ある教室や講習会等の回数を増やしている最中であることから、更なる推進を図っていく。</p> <p>次年度の地域スポーツの推進に当たっては、新型コロナウイルス発生状況を注視しつつ、十分な感染拡大防止対策を講じ、中止や規模縮小を含め各種スポーツ行事の実施可否を判断していく必要がある。</p>